

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

- 1) 勉学、部活動、学校行事の三分野すべてに情熱をもって取り組み、しかる後に自分の希望する進路に到達する心爽やかで逞しい生徒を育てる学校をめざす。
- 2) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

2 中期的目標

〇めざす学校像に向けて、以下の取り組みを行うとともに、絶えず振り返りを行い、ねらいどおりの結果が出ているかという計画・実践・評価・改善のPDCAを機能させて検証していく。概ね3年後を目途に以下のことに取り組み、※の目標を達成させる。

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

- (1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる
 - ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。
 - イ 課題提出100%に向けた学年・教科担当者全体での取り組みを行う。
 - ウ 自習室の利用率前年度比10%増・1・2年生用に図書館での自習者増の取り組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を70%以上とする
 ※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を70%以上とする
- (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる
 - ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる。

※相互授業見学への教員の参加を前年度比10%増
 ※若手教員技量向上へ(新採3年目まで対象の)新三研修の継続

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む
 - ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせていく。さらに遅刻数をさらに減らす。
 - イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る。
 - ウ 国際交流の活性化を図る。
 - エ 朝の読書において、知的体験を蓄積できる系統的な学習の場とする。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を70%以上とする
 ※遅刻者数前年度比10%の減少を図る
 ※部活動加入率70%以上を維持し、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を70%以上とする
 ※海外研修参加者・海外高校生受入数を前年度より増加させる
 ※生徒向け学校教育自己診断における朝の読者関連の肯定的意見を80%以上とする
- (2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく
 - ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業。読解力・表現力深化をめざす国語の授業を展開する。
 - イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
 - ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。
 - エ 進学講習を組織的に実施する。

※授業で外部指標のある教材(漢検・英検)を活用し、文系選抜コースの生徒に「外部指標」受験を促す
 ※卒業生の全合格率に占める4年制大学合格率65%とし、卒業時アンケート「決定進路に満足」の肯定評価90%以上を維持する
 ※平成28年度の進学実績：関関同立合格者20名を上回る
 ※学校斡旋の就職内定率を100%とする
 ※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を75%以上とする
- (3) 安全で安心な学校づくりを行う
 - ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任等との面談機会を活用していく。
 - イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。
 - ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を70%以上とする
 ※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を70%以上とする
 ※要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

- (1) 高石市にある唯一の公立高校として地域の信頼に応えていく
 - ア 【学校を外に開く】毎年重ねて交流を求められるよう、地域、地元幼稚園、地元中学校等との地域交流を継続する。
 - イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。
 - ウ 【学校を外に開く】高石市合同津波避難訓練との連携を継続し、教職員・生徒ともに津波等に対する危機管理意識の更なる深化をはかる。
 - エ 【学校を内に開く】学校説明会などで本校の良さを知ってもらい取り組みを実施する。
 - オ 【学校を内に開く】「ご来校(お電話)いただきありがとうございました」の姿勢を維持する。

※地域交流が活発であったか
 ※新生生の出身中学への訪問も含め、生徒、教員による中学校訪問合計数を前年度数以上とする
 ※体験入学者数、学校説明会参加者数、クラブ体験の参加者を前年度数以上とする
 ※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見を70%以上とする
 ※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見を70%以上とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(授業) 授業関連で教職員の「授業をわかりやすくするために工夫している」という質問項目では 86.8%の肯定率があり、生徒の「授業はわかりやすく、工夫されている」という質問項目では 1 年生 73.5%、2 年生 79.0%、3 年生 74.1%の肯定率があり、学習の定着は一定できていると考える。</p> <p>(キャリア教育) キャリア教育関連で、生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」という質問項目では 1 年生 81.0%、2 年生 73.1%、3 年生 68.5%の肯定率があり、1 年次に HR の時間増をした効果が出ていると考える。さらに、本年度新たに追加した「挨拶の励行」における肯定率は生徒 77.5%、教職員 88.0%、保護者 78.3%であり、平素から生徒の挨拶ができていていると考える。</p> <p>(部活動・学校行事) 部活動の肯定率は、生徒 80.4%、教職員 75.5%、保護者 72.9%であり、学校行事の肯定率も 生徒 73.6%、教職員 82.4%、保護者 73.7%であり、学校目標に近づきつつあると考える。</p>	<p>第 1 回 (7 月 5 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス編成について 文系選抜の中にも私大以外の進路を希望する者がいた場合どうするか →センターに関する説明など、私大志望以外の人への配慮もしている。ただ、明確な進路の指針を与えるためのクラス分けである。学校にできるのはきっかけ作りで、家庭学習が重要。継続して勉強できる環境を整えれば、もう少し上の進路も見えてくるのでは。 ・キャリア教育について 進学に大きく舵を取ると、それ以外の取り組みはどうなるのか →「勉学、部活動、学校行事の三分野すべてに情熱をもって取り組み、しかる後に自分の希望する進路に到達する」という本校の目標のもと、それぞれに力を入れている。 <p>第 2 回 (9 月 10 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学について 進路の要望 (例えば近畿大学をターゲットとしたなど) 需用への対応について、学校はどのように考えるのか。何かシステム的にできることはあるか。 →進路希望に応じたコース制を整備しており、動機付けとなる大学への見学の機会を増やすなど、個々のリクエストに応えられるよう実施している。さらに、生徒たちのポテンシャルを育成していくのが必要と認識している。 ・寄附について、所得税控除を絡めて 学校に金品の寄附などはできるのか →課税控除は現金の寄附となるが、学校単体に直接現金は制度としてなく、教育庁の管理となる。これは教育庁傘下の学校に格差をつけないことなどの理由であり、物品の寄附においても高額なもの、工事など施設関係は教育庁担当課に諮る必要がある。 ・文化祭当日であり、生徒たちの様子をご覧いただき、生徒たちが生き生きしている様子であることを評価していただいた。 <p>第 3 回 (2 月 23 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動について、大きな活躍はあったか →レスリング・ボートが全国大会に出場。文化部は吹奏楽部が南地区で金賞。 ・活躍した生徒を皆の前で表彰などはするのか →始業式・終業式などの式典で、校長の話のすぐ後に行っている。 ・クラブ活動の定着率はどれくらいか 今年度の退部の主な理由は、「勉強に集中するため」であった。内申のために勉強をしないとダメという思いが強い。ただ、部活をやめたところで勉強しているわけではないので、両立させることを分からせたり、週に一回部活動休みの日を作るなどしている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 教員一人ひとりが、教員相互に高めあう学校</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる</p> <p>(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる</p>	<p>(1) 家庭や自習室での学習を定着させる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進捗や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究する。</p> <p>(2) 授業アンケート結果及び授業見学 (教員相互も含む) に基づき、授業改善方策を検討する。 ・初任 3 年目までの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。</p>	<p>(1) 自習室の利用者数を前年度数以上。 (平成 27 年度 2900 名) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を 60%。 (平成 27 年度 55%) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を 60%。 (平成 27 年度 55%)</p> <p>(2) 教員相互の授業見学者を 50%。 ・「新三研修」に初任 3 年目までの教員が全員参加したか。</p>	<p>(1) 自習室の利用者数 3025 名 (○) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 61%。(○) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 73%。(○)</p> <p>(2) 教員相互の授業見学者 40%であり、今後授業アンケート等を活用して見学者を増やしていく。(△) ・「新三研修」に、新たな教育学の大学教員を講師として関わっていただき、初任 3 年目までの教員が全員参加し、授業力向上に努めた。(○)</p>

府立高石高等学校

<p>2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校</p>	<p>(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む</p> <p>(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくりを行う</p>	<p>(1) ・在籍生徒数は増加したが、遅刻者数を減らす。 ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・「第三次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。</p> <p>(2) ・コースと選択科目の効果的な運用を検討する。 ・スタディサポート等の外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。</p> <p>(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SCとともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p>	<p>(1) ・遅刻者数を2000名以下。 (平成27年度1962名) ・部活動入部率70%。 (平成27年度67%) ・海外高校受入れ回数10回。 ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見を80%。 (平成27年度76%)</p> <p>(2) ・選択科目等含めたカリキュラムの検討をしたか。 ・漢検、英検の受験者数を350名以上。 ・4年制大学合格率60%。 (平成27年度54%) ・学校斡旋の就職決定率100%。 (平成27年度100%) ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見を75%。 (平成27年度71%)</p> <p>(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を60%。 ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見を60%。 (平成27年度55%) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見を60%。 (平成27年度47%)</p>	<p>(1) ・遅刻者数 1728名 (◎) ・部活動加入率 68% (△) ・海外高校受け入れ回数3回 (△) 米国からの交流生が来校した際には、夏季休業中にも関わらず本校生30名以上の交流参加者があった。 ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見81%。(○)</p> <p>(2) ・カリキュラムの検討を実施。選択科目の群を、生徒が選択しやすいように変更した。(○) ・漢検、英検の受験者数 172名 (△) ・4年制大学合格率62% (○) ・学校斡旋の就職決定率100%。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見76%。(○)</p> <p>(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見63%。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見58%。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見60%。(○)</p>
<p>3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校</p>	<p>(1) 高石市にある唯一の公立高校として地域の信頼に応えていく</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・部活動や学校行事等を通じて、幼稚園、中学校、自治会等と交流を実施。高石市連携の地震津波合同避難訓練で水平避難も実施。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。</p> <p>【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらい取り組みを実施する。 ・「ご来校（お電話）いただきありがとうございました」の姿勢を維持する。 ・創立40周年の記念行事等を成功させる。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・交流や避難訓練を実施し、活発であったか。 ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする。 (平成27年度85件)</p> <p>【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ350名以上。 (平成27年度273名) ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見を60%。 ・創立40周年の記念行事等をPTA、同窓会、後援会等と連携し、成功させたか。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・幼稚園（たこあげ）中学校（音楽交歓会）自治会（地域清掃）等の交流を実施。(○) ・外部訪問件数 164件と倍増した。(◎)</p> <p>【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ630名と大幅増した。(◎) ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見を82%（＝「高石高校に入学させてよかった」の肯定的割合）(◎) ・創立40周年の記念行事等は、多くの参加があり、さらに講演の評価も高く、成功した。(○)</p>